

『強面上司の溺愛ドライブレックゝ密着(ニッそり)せつゝ』

○登場人物

・羽鳥 祥吾(ハトリ ショウゴ)CV羽柴礼
26歳。180センチ。

都心の上場企業で働いている。

学生時代からリーダー的立場を任されることが多く、仕事場では「しっかり者の頼れる上司」というポジションで仕事をしている。

仕事中は厳しい表情をしているため、部下たちから距離をおかれていることもあるが、内面は仲間思いで思慮深い性格をしている。

ヒロインとは会社の取引先で知り合った。

仕事を重ねていく中で意気投合。その後お付き合いすることになる。

祥浩はヒロインと対等な関係になりたいと思っている。

えっちな最中はヒロインを甘やかしてあげたい想いが強くなり、口調があまあまになることも。

・ヒロイン

22歳。

中小企業のOL。年上である羽鳥とお付き合いをしている。

初めは取引先の羽鳥に対して怯えていたものの、

不器用ながらも優しい性格に惹かれていった。

ヒロインは祥浩と恋人関係であるものの、

年上かつ人生の先輩として敬意をはらっている。

祥吾の誇れる恋人になれるよう、無理して背伸びしている一面も…？

ちょっぴりM気質。

・あらすじ

ある日、年上の恋人である羽鳥祥吾(はとりしょうご)に
ドライブレポートへ誘われたあなた。

二人きりで過ごすことが久しぶりだったため、少し緊張しながらもひと時を過ごす。

仕事の疲れを癒し、祥吾との触れ合いも束の間…恋人としての時間を満たすために彼の車の中でえっちなすることになってしまい…？

慣れないプレイでドキドキ羞恥心を隠しながら、

あまあまカーセックスが始まりますっ…！

37 ○本編
38 ●収録区切り①
39 ■トラック1
40
41 車内、運転席と助手席に並んで座っている。運転中。
42 (SE:車のエンジン音)
43
44 DHM:⑤ (ヒロインの方に時折、顔を向けながら)
45 祥吾「夜中にドライブ、なんて久々だな。お互い忙しくてデートもできてなかったし…」
46
47 トロイン「こんな時間に呼び出されて、ビックリしちゃいました」
48
49 祥吾「あゝ…ごめんな、急に家行ったりして。今日は早めに仕事終わってw」
50
51 祥吾「」の前、電話してた時、『今日と明日は仕事ない』っていつたの思い出っ…」
52
53 祥吾「あんまり二人の時間も取れてなかったし…その…デートっていつか…
54 直接顔見たくなって…会いたくなっちゃった」
55
56 祥吾「ま、たまには息抜きだと思って景色でも見ながらゆっくりして。」
57
58 トロイン「それで、車なんか出してど「いくんですか…」
59
60 祥吾「ど」に向かっているのかって…っん…まだ内緒。
61 もっすゝ着くから楽しみにっつてよ」
62
63 (SE:エンジン音)
64 (SE:エンジンカー音)
65 目的地に着き、車を停める。
66
67 DHM:⑦
68 祥吾「よし、着いたぞ。車、降りれるか?……そっだ、ちょっと待って」
69
70
71 (SE:シートベルト外す音)
72 (SE:車のドアを閉める音)

73 DHM:③→②上
74 祥吾「……はい、お手をください。エースコートしてあげる」
75
76 祥吾「ん、ゆっぴりでいいよ。……せつかぐだしこのまま手つないでいいつか。
77 ……ほら……あそこ、見えるか。」
78
79 トロイン「うわあ……スッゴい綺麗な星空……」
80
81 DHM:②
82 祥吾「綺麗だろ、この星空。地元の人しか知らない隠れ観光スポットらしくてな」
83
84 祥吾「俺も何回か来たことあるんだ。まあ、当時は一人で来るが多かったんだけど」
85
86 祥吾「仕事とかプライベートで行き詰まった時に…
87 夜に車だしてこのまで来て、星眺めながらボートすんの」
88
89 祥吾「色々考えることもたくさんあるけど、なんか悩み全部がちっぽけに思えてきて…
90 ま、なんかかなるだらうって元気もらえんだ」
91
92 祥吾「お前も『最近仕事忙しい』『ってばやいてたろ?」
93 目標に頑張るのも大切だけど、たまには仕事を忘れて…
94 ゆっぴりする時間も必要かなって思っっ」
95
96 祥吾「…というのは口実で、ホントはお前と二人きりの時間がほしかっただけ……
97 なんてな」
98
99 トロイン「あ、ありがとございますっ……」
100
101 祥吾「いいよ、お礼なんて。むしろありがとっは、うちのセリフだよ。
102 っっちを急に連れ出したりして悪かったな」
103
104 DHM②→①移動
105 祥吾「……な、そのまま、動かないで……っち、向けるか」
106 (数回キス→ディーブキス10秒)
107
108 DHM:①
109 祥吾「んっ…急にキスしてビックリしたか?ま、たまにはっっっつのも悪くないな」

110
111 祥吾「…は、顔真っ赤。驚いてる顔もかわいい…」
112

113
114 クロイン「…もっつかい、っっ。」

115 (嬉しそうにしながら)

116 祥吾「もっとう……なんだ、今日は随分と甘えただな。

117 ……いいよ、舌出したまま……っっち向いて」

118 (ティープキス：10秒)

119
120 祥吾「…興奮してるっ息、漏れてるぞ」

121
122 祥吾「……普段からも、っっして俺に甘えてくれてもいいんだからな？」
123

124 クロイン「でも……祥吾さんは一応先輩みたいなものですし…」
125

126 祥吾『先輩』ねえ……確かに俺はお前より年上だけど……俺とお前は恋人同士、だろ？」
127

128 祥吾「無理に敬うのをやめろ、とは言わないけど。」

129 ……お前とはパートナーとして、対等な関係になりたいんだよ」
130

131 クロイン「でも…」
132

133 祥吾「…でも、じゃなくて。…ハア……全く。仕方ないやつだな。お前は」
134

135 祥吾「……少し素直になれない恋人ちゃんには…

136 もっと恋人としての自覚、もってもらわないとな」
137

138 クロイン「じ、自覚っ……？」
139

140 祥吾「最近はお前らしいこととしてあげられてなかったし…」
141

142 DHM:③

143 (耳元でわっわやきながら)

144 祥吾「……エッチなこと、してもいい～」
145

146 クロイン「ちゅ……っっ、外ですって……」

147
148 DHM:③から②移動
149 祥吾「ヤすが、外じゃしないって。…ほら、こっち」
150
151
152
153
154

●収録区切り②

(車に「戻る」)

(SE:車のドア開ける→閉める)

ヒロイン「…」

DHM:⑦→①(車に乗りヒロインを向く)

祥吾「…車の中なら、室内みたいなもんだろ?」

ヒロイン「でも…」

祥吾「大丈夫だって…もう夜中で暗いし、人もあんまり来ないところから。

それにシート倒せば…よっと…ほう、多少は足も延ばせるくらい広くなった」

DHM:①寄り

祥吾「…は、それでもやっぱり狭いか?…距離、どうしても近くなっちゃうかも」

祥吾「今日はこのまま、ぴったりくっつきながら…」

今まで愛してやれなかった分、たっぷり可愛がってあげるから」

(キス数回→デープキス15秒)

祥吾「…キスだけでとろけた顔しやがって。

それに耳まで真っ赤にして、かわいいやつ。

…今度は耳、ちよつと貸してもらおうかな」

ヒロイン「まっ、待って、祥吾さん……」

DHM:①寄り(③「向かって」)

祥吾「別に変なことはしないって……言っただろ?」

今日はたっぷりかわいがってやること」

(耳舐め:10秒)

ヒロイン「やっ…みっ……?」

192 DHM:③寄

193
(耳舐めながら)

194 祥吾「…んっ…耳舐められるの、好きだったよな。」

「うやうや…耳の奥の方まで…舌でグチュグチュにされるの…」

197 ヲロイ、「ぢ、ぢあひ…」

199
(耳舐めながら)

200 祥吾「イヤイヤ言ってる割には、あんまり抵抗してないみたいだけど。」

…素直になれるように、もっともっと…気持ちよくなろうな」

202 (耳舐め 10秒)

204 DHM③から⑦移動

205 祥吾「……うちの耳ばっかじゃかわいそうだし……今度は反対の耳、舐めよつか……」

206 (耳舐め 10秒)

208 DHM:⑦寄り

209
(耳を舐めながら)

祥吾「…ふうっ……ははっ……耳の周り、なぞるように舐められるの好き？」

カラダ、ゾワゾワして震えが抑えられなくなってる……!」

213 (耳をなめながら)

214 祥吾「暗くっても分かるからな……」

215 目がウルウルして息もはあはあがってきて、あつくなってるのが…」

216 (耳舐め: 10秒)

217 (服の上をまぐり始める)

219 DHM:⑧

220 (少しかうように)

221 祥吾「……あれ？……これは……胸の真ん中……」

222 乳首のト、ツンツンして硬くなつてゐるのうに見えるけど……

もしかして、耳舐めだけで興奮しちゃった？」

ヒロイン「……つつー！ち、ちがいまっ……！」

229 DHM:⑧から①移動
230 祥吾「違う、かあ……そう……そんな」というなら…
231 直接、お前の胸触って確かめてあげるしかないよな?」
232
233 トロイン「…や、やだっ……」
234
235 DHM:①
236 祥吾「ん……急に暴れてどうした。…なんだ、胸触られるのそんなに嫌だったか」
237
238 トロイン「そ、そういうわけじゃないんです……けど…」
239
240 祥吾「そういうわけじゃないなら……いいだろう?」
241 ……それとも、触られたくない理由がなにかあるのか?」
242
243 祥吾「嫌なら、ちゃんと教えてくれないか?…大丈夫、どんな理由でも受け入れるから」
244
245 トロイン「……笑いません?」
246
247 祥吾「笑うって…そんなこと、俺がそんなひどいことするわけないだろ。」
248
249 トロイン「…今日、あんまりかわいくない下着付けてるんです」
250
251 祥吾「……はっ下着があんまりかわいくないから、って……」
252
253 (ほっとした様子で)
254 祥吾「はあっ……ビックリした…よかった…そんな理由で…
255 俺、お前になんかしたのかと思って…」
256
257 祥吾「…いや、お前にとっては大事なことだったんだもんな」
258
259 祥吾「先に言っておくけど…大丈夫だって。そんな気にするんじゃないよ」
260
261 祥吾「何回も言ってるけど、俺はお前と対等になりたい…
262 ありのままのお前を愛してあげたいんだ」
263
264 祥吾「もちろん、俺のためにかわいくなりたいうって気持ちもすごいうれしい…
265 でも、無理して背伸びしなくてもいいんだよ」

266
267 祥吾「俺は、そんなお前を好きになったんだから」
268
269 トロイン「祥吾さん…」
270
271 DHM:①寄り
272 祥吾「下着のことは気にしないでいいから。
273 ほら、ホック外すから…服、めくるぞ。ちょっと背中浮かせてくれる？」
274
275 (SE:服をまぐる音)
276
277 祥吾「…なんだ、全然かわいいじゃん。
278 …むしろ、…っていうのも好きなんだって知れて、なんかイイな」
279
280 (少し嬉しそうに)
281 祥吾「それに…そのちょっと嫌そうな顔。いいかも。…なんかそぞろな」
282 (ディープキス 10秒)
283 (キスしながら胸をいじり始める)
284
285 DHM:①下寄り
286 祥吾「…はは、乳首、もうこんなに勃ってる。汗もかいて、あつくなってきたな。
287 …おつきくなったぶつくり乳首…俺が舐めて冷やしてあげないと」
288 (乳首舐め:10秒)
289
290 (乳首舐めながら)
291 祥吾「車の中でセックスするのなんて、初めてだもんな。俺もめちゃくちゃ興奮する…」
292
293 トロイン「んああっ…あ…」
294 (乳首舐め:10秒)
295
296 (乳首舐めながら)
297 祥吾「声も、抑えられなくなってきたな。かわいい…乱れた声、もっと聞かせて…」
298
299 トロイン「Jえっ…外つきJえちやっ…からあ」
300
301
302

303 (乳首舐めながら)

304 祥吾「外に聞こえちゃう…？平気だつて。こんな夜中にここ来る人なんてほとんどいな
305 いだろ」

306 (乳首舐め：10秒)

307

308 トロイン「ふっ…！」

309

310 (乳首舐めながら)

311 祥吾「ふっ、足…もじもじしすぎ。車の中狭いから、俺のカラダにあたっちゃってるね。

312 ……もう我慢できなくなっちゃった？」

313

314 トロイン「…もつと、気持ちよく、してえ…」

315

316 (乳首舐め終へ)

317

318 DHM：①

319 祥吾「ん、ちゃんとおねだりできてえらいな。

320 その言葉通り、次はここ…おまんこ、触ってあげるから」

321 ●収録区切り③

322 ■トリンク2

323

324 DHM:①

325 祥吾「じゃあほら、片足だけ上げて…できるっ…あれ、下着、色変わってないっ」

326

327 (SE 水音)

328

329 祥吾「…もうびしょびしょに濡れてるじゃん。

330 えっちなお汁たくさん漏らして、パンツも濡れてきちゃってる」

331

332 (少しからかうように)

333 祥吾「まだ耳とおっぱいイジメてあげただけだろっ」

334 ほんとお前って…濡れやすい感じやすいよな」

335

336 祥吾「…そっぴうえっちなことが大好きなところも含めて好きなんだぜ。

337 …たぐっくん気持ちよくなれる、いい子ちゃんだな」

338

339 DMH:②

340 祥吾「…っやって…布の上から爪立てて…ひつかいてみようか…

341 カリカリ…カリカリ…っっ…」

342

343 ヲロイン「んっ…」

344

345 祥吾「…うら…無理に声抑えようとすんなって。唇噛むの禁止。ケガしたら危ないだろ」

346

347 祥吾「そんなに声出したくないんだったら…俺の腕、噛んでおくか？」

348

349 祥吾「やだあっ…！…祥吾さん、ケガしちゃっからあ…」

350

351 祥吾「自分がケガするのはいいのに、俺を傷付けるのはダメって…」

352

353 祥吾「別に声、我慢しなくていいんだぜ。

354 …俺はお前が気持ちよく乱れて…ガってる姿も声も大好きなんだから…」

355

356 ヲロイン「……ほんとですか？」

357

358 祥吾「ホントだして。ウソなんかつかないでば…
 359 だからほら、もしもこの袋持ちもくなくって…」
 360
 361 (布越の手ブレ 10秒)
 362
 363 ヲロヤン「…あー…そーい…」
 364
 365 DHM:①
 366 祥吾「下着の上から…おまんこの周り…
 367 スリスリ…スリスリ…って撫でてあげるのはどうだ…?」
 368
 369 ヲロヤン「えへへ…………」
 370
 371 祥吾「…布越のじやあもぶかじそでだね。腰、カクカクするの止まらなくなってる」
 372
 373 祥吾「うーも、触ってるよ。…でも、ちゃんと教えてくれないな」
 374
 375 DHM:①捨て
 376 (耳に足むわわやもながら)
 377 祥吾「おまんこの中、指の先やめ、先やめにやねるのよ…
 378 シ、シ、ンおこわくなってるの、トリス、リ、リ、リやねるの…うがちがってる」
 379
 380 ヲロヤン「……む」
 381
 382 DHM:②
 383 祥吾「ほーら、ちゃんと分かるように教えてい…」
 384
 385 ヲロヤン「……ぶっちも、触ってんだ、わろ」
 386
 387 祥浩「両方とも、ぶっちも触ってほっちなんで…欲張んな奴。
 388 …でもね、この、上手いおなだ、うしろもね、へい、
 389 いれからまたくわて練習しなごうな」
 390
 391 (SE 下着を脱がす音)
 392 (SE 水音)
 393
 394

432
433 (クニ:10秒)
434 (ヒロイン絶頂)
435 (舐め終へ)
436
437 祥吾「ん…あっ…気持ちよくイケた…？」
438 腰、ビクビク浮かせて思いつ切りイっちゃったもんな。
439 ……それじゃ、このままもう1回イこうか。」
440 (キムン:10秒)
441
442 ヒロイン「やつ…やだやだ…なんでっ…？」
443
444 (再び指を動かす)
445 祥吾「やだやだじゃないだろ。俺の車で気持ちよくなってる姿なんて
446 めったに見れるもんじゃないんだから。」
447
448 DHM:③寄る
449 (耳でわしゃやきながら)
450 祥吾「ね、もっと可愛いのを見せよう。」
451 (キムン:10秒)
452
453 ヒロイン「やだやだやだっ…来ちゃうからあっ…止めてっ…？」
454
455 DHM:②寄る
456 祥吾「どっしたっ…きちゃうって、なにが？何が来そうになってるの？ねえ、教えてっ。」
457
458 ヒロイン「…どっ…キムン、なの…。」
459
460 祥吾「…キムン、何が、キムン、なのかな？っ…。」
461
462 ヒロイン「…っ潮っ…吹いちゃいそうなのお…。」
463
464 祥吾「…っは、いいよ、お潮、出っしよ。車が汚れちゃうとか気にしなくていいから。
465 好きなだけ出っしよ。」
466 (キムン:10秒)
467
468

469 DHM:①寄る
470 祥吾「俺が良いつて言ってるんだからいいじゃん。
471 てか、もうお前の愛液、シートまで垂れてるっ…」
472
473 祥吾「気持ちよく潮ふけるもつに…もっかいクリトリス舌で舐めながら…
474 おまへ」指でぐちゃぐちゃにこつあげる「……………」
475 (舐めながら手マン:10秒)
476
477 (舐めながら)
478 祥吾「んっこれ好きっ気持ちいいっ声も腰も止められなくなって…あー…もう限界?
479 じゃあ」Jでイっつか。ほらほらほら…指と舌でイジメられながら…
480 潮びゅっぴゅ吹きながら…イけっっ……………」
481
482 (ヒロイン絶頂)
483 (潮吹き)
484
485 ヒロイン「あっ……………あっ…潮…吹いちゃ…」めんなや…」
486
487 祥吾「ん…おっと…いっぱい潮吹けたね……………いいよ、謝らなくて。
488 ぐちゃぐちゃに気持ちよくなってるっろろ…すっっっ可愛かったから。」
489
490 祥吾「ね、もっかいキス、しっしっっ。」
491
492 ヒロイン「んっ…」
493 (ティープキス:10秒)
494
495 DHM:①
496 祥吾「…………めん、俺も我慢できなくなってきた…」

●収録区切り④

■トリンク3

(SE:ズボン、パンツの衣服を脱ぐ)

DHM:①奇っ

祥吾「なあ見ええるや、俺のちんこ。もうこんなバキバキになってるの。」

お前の可愛い姿見せられて、はち切れそうなくらいおっきくなっちゃった……」

ヒロイン「…おっじいおっちゃん…」

DHM:⑧

祥吾「お前も欲しいっ、ん、わかった。まっって、今ゴム付けるから…」

(「ゴムを取ら出っ)

(「ゴム開封)

ヒロイン「……なんで車の中に「ゴム」あるの？」

(おっが悪そうに)

祥吾「…えっなんで車に「ゴム」あるのかって……？」

あゝ……その……いや、だって……一応、念のため？」

お前とは、いつそうなるってもいいようにっ……」

DHM:①

祥吾「…あゝ……はいはい、分かった分かった。もう降参、ちゃんと白状するよ。」

…まあその、ドライブ連れていっこうって考えてた時から、

「っっっっ事ができたらいいな」とは…考えてた」

祥吾「…悪かったっ。

…でも最近忙しくて恋人らしいこと出来てなかったのは事実だろっ。」

ヒロイン「……その言い方、ずるっ」

祥吾「うめん足、広げらんないから……ん……抱えて持ち上げてくれるっ。」

うん……そんな感じ。…大丈夫？体勢きつくないっ………じゃあ入れるよ……」

534
535
536 (挿入)
537 上ロイン「はあぁう……………すじ……………祥吾さんの……………おつきい……………あぁ……………」
538
539 DHM:①寄る
540 祥吾「あぁ……………きつつ……………気持ちいい。やばい、お前…締めすぎ…
541 ……なに、もしかしてまたイッてるの？」
542 たっちゃん「気持ちよくなれるの、ほんとかわいいね…」
543
544 祥吾「はぁ……………のまま……………ゆっくり動きながらお前の好きなとこに当たる角度…
545 探すから……………」
546 (ゆっくり上ロイン 10秒)
547
548 祥吾「はぁ……………じ……………ん……………じ……………ちの方がいいかな？このへん、奥のこの辺りとか……………」
549
550 上ロイン「……………つつぁ……………」
551
552 祥吾「あ、身体ビクッて跳ねた。見つけた。
553 指じゃ届かない……………いっちばん奥の子宮の入口……………」
554 (上ロイン 10秒)
555
556 上ロイン「やだっ……………奥ぐりぐりするのやだぁ……………」
557
558 DMH:②寄る
559 祥吾「じ……………子宮の奥の方グリグリされるのやばいだろ……………ふん……………」
560 必死で声我慢……………めっちゃぐちゃに突いてやるから、そのまま我慢……………しろよ。」
561 (激つめ上ロイン 10秒)
562
563 祥吾「す……………じ……………お前感じがすぎ。声、抑えられなくなってる…
564 そんなに気持ちいいんだ……………」
565 (激つめ上ロイン 10秒)
566
567 上ロイン「あ……………め……………ん……………つつ…………………………」
568
569 祥吾「……………あ……………やばい、今のお前…顔真っ赤にして、涙目でじ……………ち見てめ……………」
570 ……可愛すぎるだろ……………」

571
572 祥吾「俺のせいで、」ってなってるんだって思うよ、興奮するの…」
573

574 祥吾「ねえ、今、お前のこと気持ちよくなってるのは誰？」
575 誰の何で気持ちよくなってるの？ほら、言ってる…素直に…言えるだろ…」
576

577 ヌロイン「…っ…祥吾ちゃんのおちんちんでっ…」
578

579 祥吾「んっ……『祥吾ちゃん』じゃなくて…『祥吾』って呼んで…
580 俺たちは先輩後輩じゃなくて…恋人、だろっ…」

581
582 祥吾「『祥吾のおちんちんで気持ちよくなれてます』…っ…
583 お前の口から言ってみて…っ…」

584
585 ヌロイン「……っ…祥吾のおちんちんでっ…気持ちよく、われてますっ…っ…」
586

587 (嬉っっっ)

588 祥吾「…よっぴきました。…そうだな、お前のこと気持ちよくなせてあげられるのは、
589 俺だけ…っこれからかな」
590

591 祥吾「俺も、こんなエッチなことしたいと思えるのは…

592 お前だけだから…もっともっと…突いてやるからっ…」

593 (喘ぎながら激しめ。ヌロイン 10秒)

594

595 祥吾「んっ…はあぁっ…もうイキそうっ…いいよおっ…

596 もっと激しくしてあげるからっ…おかしくなってる姿、俺に見せてっ…」

597

598 祥吾「ほらほらほらっ…おちんちんで突かれて気持ちよくなれっ……………」

599 (喘ぎながら激しめ。ヌロイン 10秒)

600

601 (ヌロイン絶頂)

602

603 祥吾「はあ…はあ…イっちゃった…っ」

604 「っめんね、俺まだやってないからっ…もうちょっとだけ付き合っくれろっ…」

605

606 DHM:②から①移動
607 祥吾「この体勢だと、お前の腰、ちよつと痛めちゃいそうだから……
608 身体、起」じてもうってでもいい？」
609
610 トロイン「……今更じゃない？」
611
612 祥吾「今更過ぎるっ……こんだけ腰動かしてたら、明日動けないってか…?
613 ……そのまましちゃうよりは、今から体勢変えた方が次の日…
614 多少楽になるって…ん、一回ちゃんこ抜くぞ」
615
616 (一回ちゃんこ抜く)
617 (体勢変更)
618
619 祥吾「あつ……お前の愛液、ゴポゴポって溢れてきた……
620 あゝ……そうだゴム、一応変えておいた方がいいよな……」
621
622 トロイン「………ゴム、しなくてもいいよ」
623
624 (あつけにとられた様子で)
625 祥吾「……えっ？今、ゴム無しでもいいって言った…？」
626
627 トロイン「………ん」
628
629 祥吾「……冗談だつて言うなら、今のうちだぞ。
630 ……正直もう、止められそうにないから……」
631
632 トロイン「私の」じ、いつまで愛っしつくれるんぞ」よ？」
633
634 祥吾「……はああっ……俺を本気にしたのは、お前のせいだからな」
635
636 祥吾「このままナマで……たっぷりおまんこに俺の精液、注いでやるからっ……！」
637
638 DHM:①
639 祥吾「えっ……」じち来て。このまま向かい合つて、抱き締めながらえっちしよ……」
640 (挿入)
641

●収録区切り⑤

D
H
M
..
①
寄り

祥吾「ああ…やつぱ…うちの方が、奥まで入るし…お前とギュッてくつつける…」

祥吾「それにナカもっ……熱がすごい伝わってくるし……」

「フカフカギュウギュウうねってるのがわかるな……!」

ヒロイン「…んっ…私も、きもちい…」

祥吾「このまま動くから、頭下げて…俺の首筋のとこに顔…うずめて。

「じゃないと頭、ぶつけそうだから。」

祥吾「んう…顔、近いね。…顔見られるの恥ずかしい？」

「いやいやしないで。俺の顔、ちゃんと見て」

(ピストン 10秒)

(車が通過する音)

祥吾「っん？…あれ、今、車通つてきた…？」

ヒロイン「えっ!?!」

祥吾「いや気のせいかな？」

「でも走ってきた音というかライトみたいなのが見えたような…」

ヒロイン「やっ……やだ……ちよつと、まって……」

祥吾「ん……ま……ま……ま……ま……今更、止められるの？」

(ピストン 5秒)

祥吾「こんなにおまんこ濡れ濡れにして……」

俺のちんこギュつてして離せなくなってるのに」

祥吾「それに……気のせいかな……」

今日は一段と中の締め付けが強くなってるような気がするんだけど……」

679 DHM:③寄り
680 (耳元でささやきながら)

681 祥吾「…な、いつもと違うシチュエーションだから興奮してんのか？」

682
683 DHM:③

684 (少しからかうように)

685 祥吾「部屋やホテルのベッドでもない……」

686 俺の車の中っていう特殊な場所でセックスして……

687 ホントは恥ずかしくてたまらないけど…

688 いや、恥ずかしいからえっちな気分になっちゃうんだろ……？」

689
690 DHM:③寄り

691 祥吾「そんなすーしMっぽいところも可愛くて……大好きだよ」

692
693 DHM:③から①移動

694 祥吾「…ははっ…まあたキュウっとおまんこ締め付けてきて…

695 気持ちよくなってるのバレバレだよ」

696 (奥を突き上げる。10秒)

697
698
699 DHM:①寄り

700 祥吾「奥、コツコツ当たってる…やっぱりお前の中もすっごく好き。

701 あったかくて最高に気持ちいい…」

702
703 DHM:⑦寄り

704 祥吾「もし声我慢できそうになかったら、俺の肩噛んでいいよ。

705 むしろ、噛んで痕つけてほしい…俺も、痕つけてやるから…」

706
707 (祥吾首筋に噛みつき)

708
709 祥吾「んっふ…けっっ綺麗に痕がついた。これで俺だけのものって印になるな…

710 キスマークも付けたい…お前も俺のカラダにいっぱい付けて？」

711 (キスマークつける)

712
713 DHM:①

714 祥吾「…っっやっつて、お互い痕つけながらするの…いいな…

715 っっただけ痕付いてると、露出の多い服着れなくなっちゃうな…」

716 祥吾「は、俺のモノって印みたいで…すっごくいいイ……！」
717 (J:K:L:N:10秒)
718
719 (喘ぎながら耳元でわちゃぐもっじ)
720 DHM:③寄っ
721 祥吾「好き…好き…好きっ…大好きっ…ー愛してるっ…！」
722 誰にも渡さない…俺の…俺だけの恋人なんだっ…！」
723
724 K:O:I:N「んっ…もっ…だめっ…イキそうっ…！」
725
726 祥吾「もうイキそうっ…っん、俺も、そろそろイキそうかも。
727 お前も、いつしよに…っーね…イくとき、俺の名前…呼んで…？」
728
729 K:O:I:N「…っ祥吾…ー祥吾…ー好きっ…大好きっ…！」
730
731 祥吾「…っー…俺もっ…ー好き…ー大好きだっ…ーああっ…イクッ…イクッ…！」
732 お前の中で、俺の全部、受け止めてっ…！」
733 (二人とも絶頂)
734 (SE:中HJ)
735 (SE:潮吹き)
736
737 DHM:①
738 祥吾「はぁ…はぁ…やつば…精子…とまんない…今まででいちばん出てるかも…」
739
740 K:O:I:N「…んっ…あつい…」
741
742 祥吾「…あ…はあっ……すっじい、気持ちよかった……
743 ほんまに車で最後までしちやったな」
744
745 祥吾「しかもナカ出しまで……きもちよかった。……ありがとう」
746
747 DHM:①寄っ
748 祥吾「ん…あ、待って。抜かないで、もうちょっとだけ…このまま抱きしめてたい」
749
750 祥吾「……あ…あったかい……」一番お前を近くで感じられるJの距離で…
751 もっ少し居やせしてくれないか」
752

753 トロイン「今度は祥吾が甘えたになっちゃったね…」

754

755 祥吾「…今度は俺が甘えたになってるっ……んっ……そうかも。
756 久しぶりにいっぱいチャイチャ出来て、嬉しいからな」

757

758 トロイン「んっ…ふあ…」

759

760 祥吾「んっ…眠いっ。目、トロッ…っっっきてる。いっぱい動いて、疲れちゃったもんな。
761 ……いっよ、」のまま寝ちゃっっ」

762

763 DHM①から⑦移動

764

765 祥吾「二人で横になれるくらいは余裕あるよ…ほう、横になって。

766

毛布もあるから…かけるよ。」

767

768 (トロインに毛布をかぶせる)

769

770 DHM:⑦

771

772 祥吾「……ふっ。はは、二人で毛布に包まるの……あたたかくていいな」

773

774 祥吾「そっだ背中、トロッっっしてあげようか」

775

776 トロイン「子供みたいだからやめてっば…」

777

778 DHM:⑧+

779

780 祥吾「子供みたいっ……まあいいだろ。今日は頑張った分、

781

めいっばい俺に甘えてくれっ」

782

783 (背中トロッっ 10秒)

784

785 トロイン「んっ…」

786

787 祥吾「大丈夫……ずっと傍にいるよ……ギョっしたまま……おやすみしよっね……」
788 (背中トロッっ 15秒)

789

目も閉じちゃって……そのままスウッって眠っちゃいな……」

787

788 祥吾「トロッっやめてっ言っただ割には…気持ちよけそっにしちゃっっ……」

789

目も閉じちゃって……そのままスウッって眠っちゃいな……」

790 DHM:⑦寝る
791 (耳元でわんやきながら)
792 祥吾「……寝ちゃったかな。今日もついでに氣持ちよくなつてくれてありがとね」
793
794 祥吾「おやあみ、…寝つてるよ…」だからお「あーん」
795
796 (軽〜キス→背中〜んんんながら「ホームラン」)【END】
797
798

●収録区切り⑥

■トラック4

アフターストーリー 車の中で寝かしつけ(事後)(ピロートーク)

(事後、車の中で二人とも寝落ち。眠っている途中で起きちゃったヒロインを優しく話しかけつつ寝かしつけてあげるストーリーです。
キス、ちゃやきはしていますがえっちはなし。)

SHM:⑧

修吾「(寝息 10秒ほど)」

ヒロイン「……………んっ…」

DHM:①、⑧の間あたり

(眠っていた状態から起きた感じで)

祥吾「んっ……………んっ…あれ、起きちゃった?」

ヒロイン「……………おはよお…」

祥吾「おはよう……………にはまだ早いかな。まだ外真っ暗だし」

祥吾「あれからそんなに時間は経ってないと思うよ。

…俺も気づいたら寝ちゃってたから多分、だけど」

祥吾「まだ寝ていいよ。いっぱい動いたし疲れちゃったでしょ」

祥吾「……………それとも、寝れなくなっちゃった?」

「一回目が覚めちゃった、眠気ってどっか行っちゃったもんな」

祥吾「いいよ、眠たくなるまで俺とお話でもしようか」

祥吾「ほら、おいで。もっかいぎゅっ…って抱きしめてあげる」

DHM:①

祥吾「んんっ…あったかい。

くっつけるだけでこんなに幸せな気持ちになれるなんて知らなかった……
くっつてずっと抱きしめていられたらいいのに…」

836 トロイン「…今日はもうこのままぐっすり寝るわよ。」

837
838 祥吾「…それはもちろん、今日はこのまま抱きしめたまま……一緒にいるよ」

839
840 トロイン「えへへ、やったあ」

841
842 (からかうつもりじゃを隠しきれない様子で)

843 祥吾「……顔、にやける。」「」「」「しちゃって……そんなにうれしいのか？」

844 俺と一緒にいられるの。……俺も、うれしいよ」

845
846 祥吾「当たり前だろ。こんなかわいくて優しい女の子が俺のそばに居てくれる…
847 それだけで十分幸せだよ」

848
849 祥吾「……ありがとう。俺の彼女になってくれて」

850
851 トロイン「……それはうちのセリフだよ」

852
853 祥吾「……ま、お互いさまでしょかな。」

854
855 トロイン「ね、祥吾」

856
857 祥吾「ん、なに……どうした？」

858
859 トロイン「キス、したい」

860
861 DHM:①寄り

862 祥吾「……ちゅうしたい？いいよ……キス、しようか。……顔、こっち向けて？」
863 (キス数回→ディープキス(5秒))

864
865 DHM:①

866 祥吾「んっ……はは、キス、気持ち良かった？」

867 ふにゃふにゃに蕩けちゃったお顔もかわいいね……大好きだよ……」

868 (ディープキス 10秒ほど)

869
870 (嬉しそうに感じど)

871 祥吾「……こんなにえっちになっちゃって……」

872 そういつと、ころも全部含めて、愛おしくてたまらないんだけど」

910 DHM:⑦寄り 抱きしめながら同じ方向を向いて
911 祥吾「ん…ほら見て…窓の向う方…見える?」からでも星、見えるんだね」
912
913 トロイン「っわあ…すっごい…」
914
915 祥吾「ね、綺麗だね。」じやって横に「ロン…と寝転びながら星見るのも、新鮮だな」
916
917 祥吾「……大分眠たくなってきた? 瞼が重たくなってる」
918
919 祥吾「もう一回…眠れるように背中トントンしてあげるね」
920
921 トロイン「ねえ、子守歌、歌ってよ」
922
923 祥吾「……子守歌は……ダメ。それはナシ。
924 ……お前、俺が音痴なの知っててそれ言ってるだろ」
925
926 トロイン「へへ、バレちゃった?」
927
928 祥吾「バレちゃったってかわいく言ってもナシはナシだからな」
929
930 トロイン「え〜」
931
932 祥吾「え〜でもダメ。……ほら、背中貸して?」
933 腕枕もしてあげるからトン…トン…ってやせよ。」
934 (背中トントン 10秒ほど)
935
936 ※以降、背中トントンをしつつあげながら
937
938 祥吾「無理に答えなくてもいいから。
939 俺の声に耳傾けて…そのままゆっくろ目を瞑って…」
940 (背中トントン 15秒ほど)
941
942 祥吾「明日起きたら……どこに行うか……まっすぐおうち帰るのもいいけど……
943 そっだ、前から行きたいって話してたカフェでモーニングでも食べようか」
944
945
946

947 祥吾「あそこ」の名物のパンケーキ、すごく美味しそうって言うってたもんな。

948 ……かなりボリュームあるけど食べられるかな？

949 ……食べれなかったら俺も食べてあげるよ」

950 (背中ㄥㄥㄥ 10秒ほど)

951

952 祥吾「それから……買い物にも行きたいな。

953 夫あ……今日の色々で服少し汚れちゃっただろうし……

954 お前に似合うの、何でも買ってあげる」

955

956 祥吾「買い物終わった後に映画、観に行くのもいいかもな。

957 ……でも、流石に疲れてるのに色々出かけるのも忙しいか」

958 (背中ㄥㄥㄥ 10秒ほど)

959

960 祥吾「明日はお互い休みなんだし、ゆっくり起きたい時に起きればいいか……

961 明日のことは起きた時に考えるのも、それはそれでいいかもな」

962 (背中ㄥㄥㄥ 10秒ほど)

963

964 ※祥吾も眠たくなってきた、トントンのリズムが段々ゆっくりになつてく

965

966 (あぐびをうって眠たそうな感じだ)

967 祥吾「……ふあっ…俺も、眠たくなってきたな……」そのまま一緒に、寝ようか」

968

969 祥吾「……おやすみなさい」

970

971 (数秒間を開けてから 寝息20秒程)

972

973 【祥吾の寝息を聞きながら「ヘッドアウェイ」】【END】